

# TAMMC

会報

令和5年9月号

Bulletin of the Tokyo Amateur Magicians Club

September, 2023

## 主要内容

第一例会	会員発表	森田晃君	長田誠彦君	八田進二君	氣賀康夫君
第二例会	会員発表	森田晃君	佐々木節夫君	関克己君	氣賀康夫君
土曜研修		栗田研君			



長岡花火 2023

## 10月の活動予定

第一例会:	10月5日(木)18:00~20:00	田中田村町ビル貸会議室5C
第二例会:	10月19日(木)18:00~20:00	田中田村町ビル貸会議室5C
土曜研修:	休会	
90周年記念マジック発表会:	10月22日(日)	朝日ホール

## 令和5年(2023)8月の活動記録

- ◆ **第一例会** 8月 3日(木)18:00~20:00 田中田村町ビル貸会議室5C  
司会:吉室誠 記録:磯部真一 出席32名

<https://youtu.be/udH9q9vOx5w>

1. 交流の時間(自由時間)
2. 会員発表
  - 1) 森田 晃 君 「同じカードが多くセットされた特別なデッキ」
  - 2) 長田 誠彦 君 「近況とマジック二題」
  - 3) 八田 進二 君 「暑さをしのぐことのできるマジック数種」
  - 4) 氣賀 康夫 君 「カード奇術敬遠者の為の基本講座 第5回目 Forcing」
3. 連絡報告事項
  - 1) 東京堂出版からの半額セールのご案内 土屋会長
  - 2) 9月土曜研修会の連絡 田澤研究・研修委員長
  - 3) プリンセス天功ショーのお知らせ 池内 和彦 君

- ◆ **第二例会** 8月17日(木)18:00~20:00 田中田村町ビル貸会議室5C  
司会:吉室誠 記録:磯部真一 出席 25 名

<https://youtu.be/3CXkl45gQFk>

1. 交流の時間(自由時間)
2. 会員発表(家族会マジック発表会ビデオ撮影)
  - 1) 森田 晃 君 「観客が任意に選ぶカードを演者が予め予言しておくマジック」
  - 2) 佐々木 節夫 君 「トランプマジック 2 題」
  - 3) 関 克己 君 「カードマジック 2 題」
  - 4) 氣賀 康夫 君 「グライドの応用マジック」
3. 連絡報告事項
  - 1)秋の発表会の入場券の案内 村上大会委員長
  - 2)9月土曜研修会の連絡 田澤研究・研修委員長

- ◆ **土曜研修** 8月12日(土)13:30~17:00 阿佐ヶ谷地域区民センター  
講師:栗田 研 君  
研修テーマ「絵画と音楽について」

- ◆ **ボランティア活動報告** 8月 26 日(土) 牧原ボランティア委員長  
HOPE神田(就労移行支援事業所)千代田区内神田  
出演者:田澤利明君

## 連絡報告事項

### ◆第一例会

1. 東京堂出版様よりご案内 土屋会長  
東京堂出版殿よりTAMC 会員限定の特別割引実施中との報告がされた。期限は 9 月 30 日。
2. 土曜研修会について 田澤研修委員長  
8/12(土)の研修会について、参加予定の締め切りを8/8とすると報告された。
3. プリンセス天功ショーのお知らせ 池内 和彦 君  
プリンセス天功 ザ・イリュージョン長岡公演が 9 月 2 日(土)、  
プリンセスマジックコンベンション長岡が 9 月 3 日(日)に  
ホテルニューオータニ長岡で開催される旨報告された。

### ◆第二例会

1. 秋の発表会について 村上大会委員長  
明紀のマジック発表会の入場券の申し込みの案内が報告された。
2. 9月土曜研修会について 田澤研修委員長  
9/16(土)の土曜研修について概要が報告された。  
講師：バーディーコヤマ氏 場所：(株)電巧社 2 階 M シアター

## 会員による発表

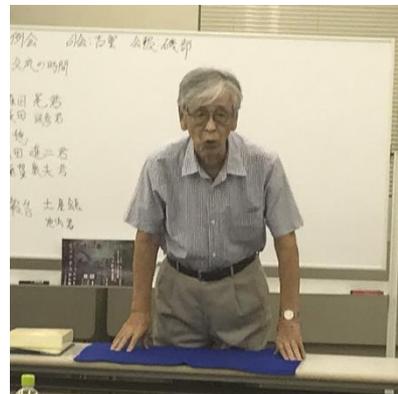
### ◆「同じカードが多くセットされた特別なデッキ」

森田 晃 君(第一例会)

#### 01. (A16-28)「ホワイト・スペンガリーデッキ」

客にデッキから好きなカードを1枚抜いて貰って、見て覚えてデッキの中に戻して貰う。これに演者がオマジナイを掛けると、客のカード以外は表側が全てブランクになる。そこで客のカードをテーブルに置いて、再びオマジナイを掛けると、今度は全て裏もブランクになる。そしてテーブル上の客のカードもブランク・バックになっている。この客のカードをデッキに戻してオマジナイを掛けると、裏も表も普通のカードに戻っている。デッキはブランクフェイス26枚と普通のカード26枚で構成されている。

「オクタゴン・ブランクデッキ」と云う名前のオクタゴン研究所の製品である。



#### 02. (A17-35)「ブランク・フォトデッキ」

1組のデッキの裏と表を軽く開いて見せる。全部が印刷のないホワイトカードである。更にデッキの向こう端をリフルして全部がホワイトカードであることを再確認する。しかしデッキを1度カットしてからファンに開くとダイヤ8が1枚印刷されて現れて、このダイヤ8をトップに移してデッキの向こう端をリフルすると、今度は全てのカードに裏模様、表模様が印刷されている。ブランクフェイス26枚とショートカードにしたブランク・バック26枚をペアにしてラフ加工したテンヨーの製品である。



#### 03. (K22-09)「バック・パズラー」

客にデッキから好きなカードを1枚選んで貰う。そして演者は、テーブルの下でデッキから3枚のカードを抜き出してテーブルに裏向きに並べ、客に「覚えたカードは何でしたか」と聞く。

客は♥7と答えるが、演者が3枚のカードを広げると真ん中に♥7が表向きにあって、♥7の両脇の2枚をひっくり返すと白いカードで、デッキの残りも全部が白いカードである。

昭和49年の例会で高木さんが発表したもの。

ブランクフェイス52枚、ヒンジ状に加工されたカードと、ハートの6が1枚ずつ使われている。



#### 04. (K24-11)「時計の形の予言するカード」

客に任意の時刻を心に思ってから、その時刻の枚数だけデッキからカードを持って貰う。

次にデッキからカードを時計の形に並べて予言の封筒を脇に置く。そして客が取ったカードの枚数だけ時計の形に並べたカードを1時から順番に数えて行くと、そこにハート5が現れる。そこで予言の封筒を開くと「貴方が選ぶカードはJOKER以外です」と云う当たり障りのないことが書いてあるので、客は「なーんだ」と思うが他の11枚を表にすると皆JOKERである。昭和51年の例会で高木さんが発表したもの。

デッキはJOKER26枚とハートの2の1枚で構成されている。



#### 05. (K12-25)「チーク トゥー チーク」

1組のデッキを取り出して、2つに分けて片方をひっくり返し、お互いにリフルシャフルする。

これをリボン・スプレッドすると表と裏が混ざっているが、そのうちの表向きのカードから客に好きな1枚抜き出して貰って、見て覚えたら裏向きにリボンの中に戻して貰う。これを揃えてシャフルして再びリボン・スプレッドすると全部のカードが裏向きになっていて、客のカードだけが1枚表向きになっている。

U・F・グラントの作品で、昭和42年の例会で高木さんが発表したもの。

デッキは裏表同色のダブルバックカードが26枚使われている。



以上

### ◆「近況とマジック二題」

#### 1. 近況報告

2016年に入会し、今年で7年目になります。TAMCでは、今年度は、大会委員と総務委員を担当しております。今年の大会は、90周年の記念大会であり、村上大会委員長の下で、大会委員が一丸となって準備を進めております。総務委員について、名ばかりであり、貢献が出来ていないのが気になっています。仕事は、電子部品のアルプスアルパインのグループ会社であるアルプスビジネスクリエーションで、引き続き営業を担当しております。扱う商品は、企業向けの研修、

長田 誠彦 君(第一例会)



メンタルヘルス、建設関連です。コロナ下で、テレビ会議を使った営業活動には苦勞しましたが、ようやく対面になり、お客さんの反応等を直に読み取る事が出来るようになってきており、営業活動もやり易くなってきました。

プライベートでは、地元浅草も活気が出てきて、5月の三社祭り、7月のほおづき市、先週(7月29日)の隅田川花火も復活し、楽しみが増えています。体調不良で、止めていたゴルフを25年振りに再開しました。練習をして、マジックと同様に、皆さんと一緒にゴルフも楽しみたいと思っています。

## 2. モナ・リザの復活

新年会のオークションでマジック道具を3つ購入しました。皆さんのご存知の「ハンバーガーの出現」、「板を貫通するダイス」、「トランプマジック」です。7月のオークションでは、4つを購入しました。「FUSION FOLIO」、「ULTIMATE SKETCH PAD」、「ライジングカード(スケッチブック)」、そして、これから演技をする一番のお気に入りの「モナ・リザの復活」です。

### 【演技の口上について】

「モナ・リザ」は、1503年～1506年頃にレオナルド・ダ・ビンチによって書かれた油絵です。

「世界でもっとも知られた、もっとも見られた、もっともパロディ作品が作られた美術作品」と言われております。「モナ・リザ」はイタリア語で「Ma (マ)、Donna,(マドンナ)、「Ma」は「私の」、「Donna」は「夫人」という意味で、作品名は「リザ夫人」ということになります。

日本には、1964年に4月に来て、上野東京国立博物館で約2ヶ月間展示され、約150万人の方が鑑賞されたと言われております。

レオナルド・ダ・ビンチ(1452年4月15日 - 1519年5月2日)は、世界で代表する芸術家です。「モナ・リザ」は、ダ・ビンチが50歳位の時に書きました。「モナ・リザ」の他にも、皆さんご存知の「最後の晩餐」、「受胎告知」等、有名な絵画もあります。画家以外にも、科学者、建築、数学、幾何学の分野でも活躍し、史上最高の芸術家とも言われます。

### 【モナ・リザ」の演技】

- ① 立派な額縁があります。その額の中に、「モナ・リザ」の絵が嵌っています。お客様に、額と「モナ・リザ」に直接触って頂き、(異常が無いかを)確認を頂きます。
- ② お客様に、紙袋の中(何も入っていない事)を確認頂いた後に、額に嵌った「モナ・リザ」を入れます。
- ③ 「モナ・リザ」が入った紙袋に、鋭利なナイフで、2～3回刺します。
- ④ 紙袋から「モナ・リザ」を取り出して、「モナ・リザ」に傷(ナイフが刺さった後)が無いことを、お客様に確認を頂き、マジックが終了します。



#### 4. 黄色いリボンバンドから抜けるカード(氣賀康夫さんの開発作品)

今年の家族会で演じたマジックです。氣賀さんが開発された作品です。

##### 【演技】

- ① 1(A)～King 迄のスペード(♠)のカード 13 枚をバンドで括っていることを、お客様に見せて、演技をスタートいたします。
- ② バンドから 13 枚のカードを外して、再び、本日使用する 1～10 迄のカードをバンドで括ります。
- ③ バンドで括られているカードが、10、9、8、7、6の順番でバンドからカードが抜いていきます。(途中途中で、カードがバンドで括られていることを、お客様に見せながら、演じます。)
- ④ 残った 5(1～5)枚のカードがバンドに括られていることを、お客様に見せた後に、カードからバンドを外して、2 回目の演技に入ります。
- ⑤ ♠1～♠5のカードをお客様に見せます。表の♠1をトップにして、♠2、3、4、5の順番でカードを重ねます。
- ⑥ ♠5を裏にして、♠1の上に乗せます。♠1を抜いて裏にして、♠5に重ねます。
- ⑦ トップから、♠1(裏)、♠5(裏)、♠2(表)、♠3(表)、♠4(表)になっているはずですが、
- ⑧ ♠5(裏)を抜いて、カードが裏の状態でお客様にこのカードは何ですか?と問いかける。カードを表にすると、♠5と変化は無い。
- ⑨ ♠1(裏)、♠2(表)、♠3(表)、♠4(表)と並んでいるはずが、スプレッドをすると4枚ともカードが裏になった。
- ⑩ 裏になっているカードは何ですか、とお客様に問いかけると、お客様は1(エース)と答えます。そうですと言いながら、4枚のカードの表を見せると、♠A、♥A、♦A、♣Aに変わっています。



以上

## ◆「暑さをしのぐことのできるマジック数種」

八田 進二 君(第一例会)

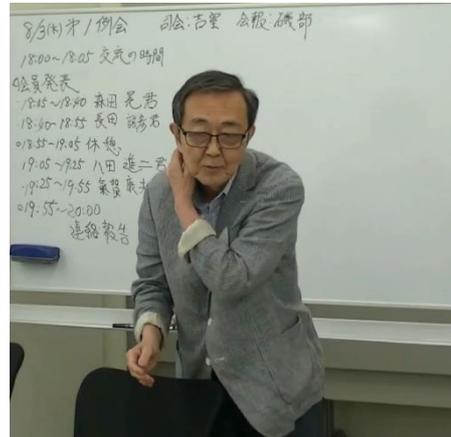
今回の発表は、暑さをしのぐということで、一部危険マジックも入れて複数の演目を演じることとした。

### (1) 空の両手から現れて、最後に消失する氷(SUBLINA)

夏の暑さ対策として、術者は、片手を握りその中へ水蒸気を集めると言って握りこぶしを作ると、そこから水がポタポタと流れ落ちてくる。さらに、温度を下げるジェスチャーをしてからゆっくりと手を開くと、その中から氷が出現する。

出現した氷で首を冷やしたりしたあと、左右の手で持ち替えたりしているうちに、氷は一瞬で水蒸気に戻って再び忽然と消えてしまうマジック。

これは、個体が液体になることなしに直接気体になることを「昇華」といい、その英語表現である Sublimation から、名づけられたマジックとして、「SUBLINA」の名の下で販売されているギミックである。

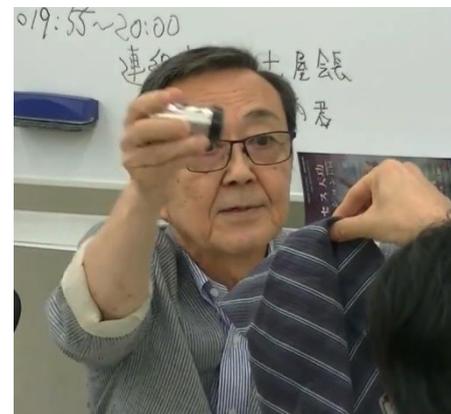


### (2) 小さく折りたたんだ千円札が、いつの間にか、塩の筒の中に移動するマジック

お客様から、千円札1枚を借り、念のため、後で、すり替えのないように、記号と数字を紙に書いておいてもらう。その借りた紙幣を小さく折り畳み、ハンカチを掛けて、しっかりとお客様に持っていてもらう。

その後、椅子の上に置いておいた、「金属製の塩の筒」を取り出し、この塩の筒をお客様の持っているハンカチの上から降って、少しだけ塩を振りかける。

術者は、「ハンカチの中に紙幣はまだありますね」といって、塩でのおまじないをかけてハンカチを取り去ると、紙幣は一瞬にして消えてしまっている。



そこで、この塩の筒をお客様に渡して、この筒のキャップを外して開けてもらうと、そこには、大量の塩が入っており、その塩をカップに開けてもらうと、その中から、消えた紙幣が出てくる。もちろん紙幣の番号も完全に一致。

塩の筒も調べてもらうが、普通の金属製の塩の筒で、キャップを外す以外には全く入り口は見当たらない。一体、この紙幣はいつの間に、そしてどこから塩の筒の中に入ったのでしょうか。

これは、ビルチューブ・マジックの変形で、大量の塩を仕込んでおくことのできるギミックを使用したマジックである。

### (3) かまぼこ板に突き立てられた鉛筆のはいった袋の叩きつけ

かまぼこ板に、研ぎ澄ました鉛筆を立てた道具を、大きめの茶封筒の中に入れて封印する。お客様に手伝ってもらい、勇気をもって、この茶封筒を真上から、勢いよく叩き潰してもらおう。鉛筆の芯が突き刺さる恐怖もあり、なかなか、お客様は茶封筒を叩き潰さないときには、術者が、一気に、叩き潰してぺしゃんこにしてしまう。



その後、茶封筒をゆっくり開けて、中から、かまぼこ板を取り出すと、なんと、そこには、突き立てられた鉛筆が、そのままの状態に残っているというマジック。

それは、突き立てられている鉛筆が、かまぼこ板の中央の穴に固定されていただけで、封筒に入れた時には、その鉛筆を抜き取って、封筒の底に、かまぼこ板と一緒に並べておいていたからである。その後、封筒からかまぼこ板を取り出すときに、この鉛筆を再び、かまぼこ板の中央の穴にしっかりとはめ組み、その状態で袋から取り出して見せるというもの。

U-tube での演技を見て自作したギミックである。

### (4) アイフォン探しの危険マジック(SleightSignals)

これは、お客様のスマホを使った超スリリングなロシアンルーレットである。

二重封筒に隠したお客様から借りたスマホを両手をかざして確認したうえで、鋼鉄のハンマーを使って、スマホと同サイズ・同重量のスマホ以外のゴム板の入った封筒を順次叩き潰すことによって探し出すマジック。



なお、5つの二重封筒は、1から5の番号札の上に並べておき、お客様から指定を受けた番号札の二重封筒を、順次、叩き潰していく。その際、お客様には、預かっているスマホが壊れた時の修復用に使ってもらいたい、ということで、事前に白色のビニールテープ張り付けた紙片を渡しておく。最後に残った数字の上の二重封筒の中には、お客様から預かったスマホが入っており、一同安心するが、実は、その数字については、「事前に予言しておきました」ということで、お客様に渡した紙片を開き、ビニールテープを剥がすと、そこには、スマホの入った二重封筒が置いてあった番号の数字が表れる。ハンマーを振り下ろす瞬間は常に会場は緊張に支配され、潰した封筒からダミーのゴム板が出てくるたびに会場は安堵に包まれる。その間の絶妙なタイミングで、緊張と弛緩の狭間に生まれる避けられない笑いが会場を包むというもの。

最後に残った無傷の封筒からお客様のスマホが無事出てくるときの大きな安心感に続いて、拍手喝采が巻き起こる鉄板メンタリズムである。なお、予言が当たったのは、5つの二重封筒に両手をかざしたときに、スマホの入っている二重封筒を認識した後で、その番号札の紙片をポケットから出して、お客様に渡していたからである。

これは、「SleightSignals」の名の下で販売されているギミックである。

以上

◆「カード奇術敬遠者の為の基本講座 第5回目 Forcing」  
・フォース (Force)

氣賀 康夫 君(第一例会)

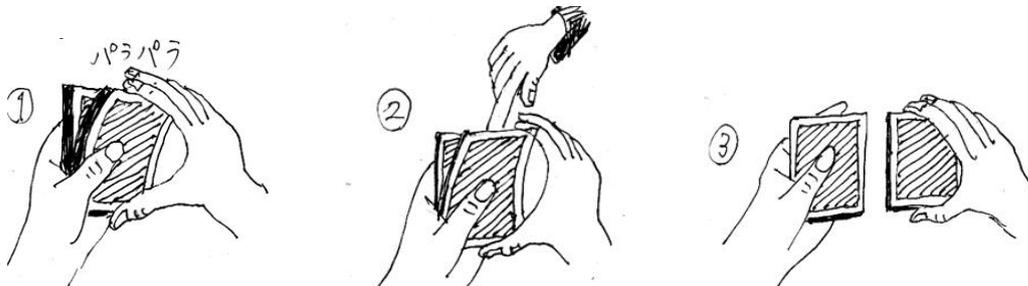
フォースというのは、観客に一枚のカードを自由に選ばせるように見せかけながら、実は演者が最初から用意したカードを取らせることができ、そのことを観客は気づかないという誠に便利な技法です。フォースにはいろいろな方法がありますが、巧妙な心理作戦によるカットフォースと種を使う効果的なフォースをお勧めすることになります。



1. カットフォース (Cut Force)

動作と台詞が上手く活用されると上手くいくテクニック不要の便利な方法ですが、やや露骨である印象は否めません。ただし、一つだけトライするに値する方法をご紹介します。筆者が開発した心理的作戦の方法です。

1. この方法では、フォースすべきカードをトップに準備します。
2. まず、その一組でフォールスシャフルかフォールスカットを行います。この手続きは大切です。
3. そして「それでは私がカードをバラバラと繰り返しますから、お好きところで指を差し込んでみてください。」と言い、右手の中指で一組の向こう端を下から上にバラバラとリフルします。(第1図)

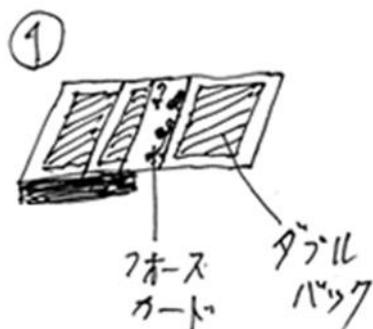


4. 観客はどこかのタイミングで指を差し入れるでしょう。(第2図) そうしたら、その場所でカードを二分し、下半分を左手に残したまま、右手の上半分をやや右に構えます。そして、何気なく「いま、どの指をカードの間に指しこまれましたか？」質問します。(第3図)
  5. 観客は予期しなかった質問を受けて、一瞬戸惑いますが、すぐ、例えば食指を示すとか、あるいは口頭で「人差し指です。」などと応えるでしょう。このやりとりが観客の思考を中断させる効果を生みます。
  6. このタイミングを逃さず、術者は右手のカードをテーブルに静かに置きます。そして、左手のカードを右手に持ち、テーブルのカードの真上のあたりに位置させます。
  7. そうしたら、空になった左手でテーブルの山のトップカードを指さし、「わかりました。それでは、この分れ目のカードを手にお取りになり、そっと表を見てそれを覚えていてください。」とお願いします。
  8. 見終わったらそのカードをテーブルの山の上に戻してもらい、その上に右手のカードを無造作にポンと乗せてしまいます。
- カットフォースもこのように取り運ぶと大変自然な流れに見えます。お試しください。

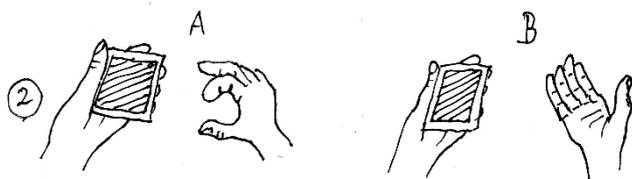
## 2. ダブルバックカードを活用したフォース (Forcing with a Double-backed Card)

ここに誠に効果的な種を使った自然なフォースの方法を解説します。この技法のためにはダブルバックカードという特殊な種が使われます。ダブルバックとは一枚のカードが表も裏も同じ裏模様というものです。アメリカのバイシクルライダーバックのデザインではダブルバックカードを奇術用具店などで手に入れることもできますが、ここで用いるダブルバックは、使うカードと同じ裏模様のカードを2枚使い、その表同士をボンドなどで貼りつけてしまうことで手作製することができます。こうして作製したダブルバックはカードの厚さが2倍と分厚くなってしまいますが、このフォースでの活用ではダブルバックカードが観客の手に触れる場面がありませんので、貼り合わせのダブルバックで十分なのです。

1. この手法を使うと2枚とか3枚とか複数のカードを数人に選ばせる演出も可能ですが、ここではフォースすべきカードはクラブの7一枚だけであると仮定しましょう。
2. この場合、カードの準備は簡単です。一組のカードを裏向きにして、まずフォースカード(クラブの7)を一番上に置きますが、それは表向きでなければなりません。そして、その上にダブルバックカードを置きます。(第1図)これで準備は終わりです。



3. 実演に際しては、まずこのセットされたカードをカードケースから取り出します。注意事項は表向きの一枚がちらつかないようにすることです。
4. ここで一度フォールスシャフルをやりたいのですが、一枚の表向きのカードがちらつく危険があるので、さらに安全な方法を用いましょう。
5. それにはまず一組を表向きにして左手に持ちます。そしてそれを広げていきますが、下の方は広げないようにするのです。このとき「ご覧の通り、カードはよく切り混ぜられています。」と説明します。
6. 続けてカードを揃え、右手で真ん中の1/3くらいを手前に引き抜いて一回ヒンズーシャフルをします。この動作では反対向きのカードが出て来ることはないはずですが。
7. シャフルが終わったら一組を裏向きに戻して、左手に持ちます。
8. ここからが大切です。左手を差し出し、右手はカードを上から掴むときの姿を作ります。それはカードの手前端に拇指、上面に食指、向う端に中指を構える格好です。(第2図A)



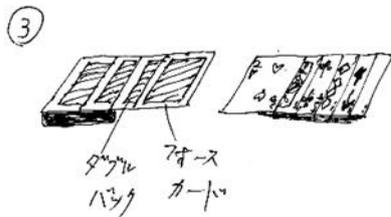
そして「では、カードの上から 1/2 でも 1/3 でも 2/3 でも構いません。お好きなだけこうやってお持ちあげになり、それをここに置いてください。」と言い、右手の掌を上に向けて左手のすぐ右側に構えます。(第 2 図 B)

9. 実はこの動作とセリフがよく考えられていて、観客がカードに触る時間が一番短く種が露見するリスクが回避される作戦なのです。

10. 観客が適量分量のカードを演者の右手に乗せたところで、間髪を入れずに右手のカードをそのままクルリと表返して左手のカードの上に重ねます。

11. そうしたら直ちにその一組のカードを取ってテーブルに置き、それを左から右に帯状に広げます。見ると下の方は裏向き、上の方は表向きです。

12. そこで演者は手で表向きのカードの部分を確認してそれをわきにどけるようにします。そして裏向きのカードの一番上のカードを指さして、「では、この分れ目のカードをお取りになってご覧ください。」と言います。(第 3 図)



このように取り運ぶと観客は自分の意思でカードを選んだという印象になりますが、実は選ばれるカードは100%演者が準備したフォースカード(クラブの7)になります。

13. 以上でフォースの手法は終わりですが、観客がカードを手にとったところで、演者は表向きのカードを集めてそれを裏向きにして、裏向きのカードの上に無雑作に乗せてしまうのがいいと思います。この動作はカードに仕掛けがないという印象を補強する役割を演ずるでしょう。

14. 複数のカードをフォースしたいときには第 1 図の「フォースカード」のところを複数枚用意することです。そのときはカードの順序に気をつけてください。

### ・フォースの応用マジック

#### 「カード当て折り紙切り」 (Card Detecting ORIGAMI Cut)

**<解説>** カード奇術のプロットで、数人の観客に一枚ずつのカードを選ばせて、それを新聞紙を使って次々に当てていくというチャームな奇術がある。原案では8♥、8♠、4♦を次々に当てる演出だったと記憶するが、その後、最後にQ♥とかJOKERを当てる楽しいエンディングを付け加える案が考案され、さらに、筆者は最初の1枚を6♥に変更する案を提案したことがあり、この修正案を演じている人も散見する。この芸は観客が20~50名のパーティー向きである。新聞紙が1ページと仮定すると我が国の日刊紙だと40×54cmという大きさになる。そこで、同じプロットで数人の観客を相手にするクローズアップでこの現象を演出できないかを考えて、この新しい用紙の折り方と切り方を考案した。使うのはA4コピー用紙が適当である。

**<いろいろな演出>** フォースでは観客が選ぶカードをあらかじめ特定することができるので、準備の仕方によっては思い思いの演出が可能となる。筆者の記憶に残っているだけでも次のようなものがある。

1. 例えば、選んだカードが果物入れのレモンの中から出てくるなどはなかなか効果的である。
  2. 水晶球を使う演技も古典である。観客が最初にのぞき見た時には、何も見えないが、最後に見ると、水晶の中に選んだカードの映像が見えるというものである。
  3. かつて、アクアピップスという種が売られたことがあった。色紙に選んだカードの名前を書き、それを折り畳んでから手で二つにちぎる。そして水が入ったお皿にその切片を放り込むと、二つの紙片が膨らんで、それぞれが♣と8という姿に変形するという魅力的な品であった。
  4. カードを選ばせたら、その名前を紙に書いてもらい、次に腕まくりして、その紙にライターで火をつけて燃やしてしまい、その灰を術者の腕にこすりつけると腕にそのカードの名前が表示されるという奇術がよく解説されている。これは筆者も実験してみたことがあるが、あまり綺麗に名前が表示できず、それからは演じようとしたことがない。
  5. さらにそれ以上に今日まで謎の奇術がある。それは茹で卵を使う芸なのであるが、いろいろな人が解説書に書かれているとおりの方法で実験したのに一度もカードの名前が現れたことがないといういわくつきの奇術なのである。現象としては白い茹で卵を割って、外の殻を取り除くと、中の白身の表面に「♥5」というようにカードの名前が表示されるというアイデアある。ところが、これが巧くいったという話は聞いたことがない。
- いろいろな本に解説がなされているが、最初の著者はたして本当に実演できたのであろうか。その後の著者は一度もトライせず、無責任に孫引きの解説をしたのではないだろうか。今もって謎の奇術である。
6. なお、読者も頭をひねって工夫すると、全く前例のないユニークな用具と演出を考案することができるであろう。将来そのような優れた作品が登場することを期待したい。

**<効果>** 三人の観客に一組のカードからそれぞれ 1 枚ずつのカードを選ばせる。そして1枚の紙を取り出し、鋏で紙切りのような操作をする。するとその紙が観客が選んだカードを次々に表現していく。

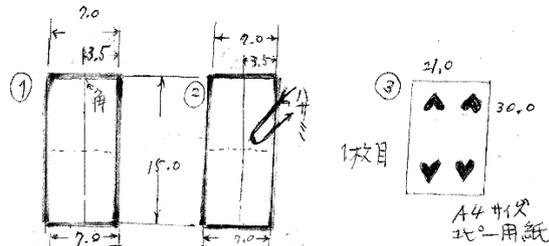
### **<準備>**

1. ダブルバックを活用するフォースを前提とすると、カードの準備はトップから次の4枚である。ダブルバックカード、表向きの8♦、表向きの6♠、表向きの4♥(ただし、ジョーカーをギャグに使うときはジョーカーを表向きの8♦の前に入れる)
2. その他の必要な準備は A4 のコピー用紙 1 枚と鋏である。

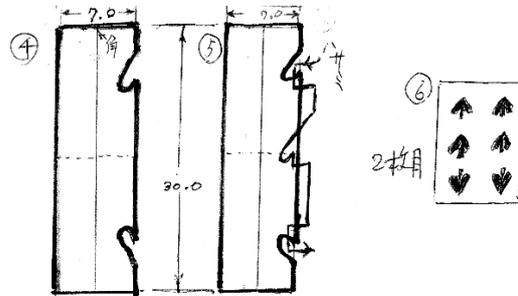
### **<方法>**

1. この奇術は、紙の折り方と鋏の入れ方がすべてである。まず、それを詳細に説明する。
  - A4 はおよそ21×30cmのサイズであるが、まず横21を二等分に折り、続けてその横10.5を二つに折る。ただし、このときは二等分ではなく、隅(角)から3.5cmの位置を折り目とする。その結果は幅が7.0cmとなる。そうしたら、最後に縦30を二等分に折る。出来上がりの大きさは7.

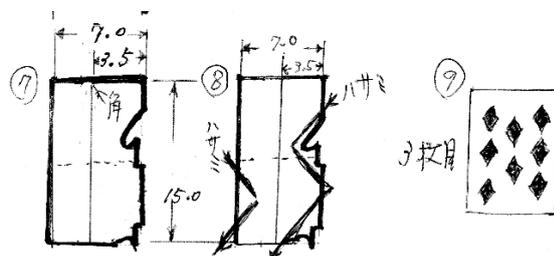
0×15cmで第1図のようになる。ここで角のある位置を確認しておくことが大切である。ここから、第2図のように缺を入れてU字形を切り取る。これだけでは何が切られたか想像がつかないだろうが、切り終わってからそれを広げると見事な4♥の姿になる。(第3図)



- 第3図の紙を縦方向の二回折りを実行すると第4図の姿になるので、第5図の中央部分のように切り込みを入れる。これは♠の6の上下中央の左右二つのピップである。そうしたら、続けて第2図の折り方までもどしておいて、♥の茎を切ってそれを♠に切り変える。これだけで4♥が6♠に早変わりすることになる。これを広げると6♠が現れる。(第6図)



- 最後に紙を再び第1図と同じ要領で折り畳む。その結果は第2図と同じ姿になり、第7図のようになる。そこで今度は第8図のように缺を入れる。完成すると第9図のように綺麗な8♦の姿になる。



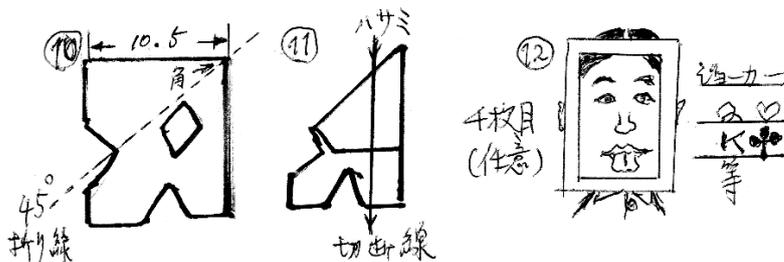
2. まず、初めに紙を折って缺を入れ、第2図まで進み、それを広げる前に一組のカードを取り出して、用意した4♥、6♠、8♦をフォースし、三人の観客に1枚ずつ持たせる。ここから「紙切り」の要領で紙を切って選ばれたカードを当てて見せると宣言し、第一の観客のカードの名前を質問する。その応え「ハートの4」を聞いてから、紙を広げる。(第3図)
3. 次に紙を畳んで缺を入れ、それを広げる前に第二の観客の選んだカードの名前を聞き、「スペードの6」という応えを確かめてから、紙を開く。(第6図)

4. 最後は同じことの繰り返しで、罫を入れてから、第三の観客のカードの名前(「ダイヤの8」を確認して、それから紙を広げる。(第9図)

### <注>

1. この奇術の原案である新聞紙のカード当てでは、8♥と8♠のデザインが、本物のカードのデザインとは異なっていた。(麻雀の八筒のデザイン)ところがこのバージョンでは、カードのデザインは正確にランプのピップの位置になるようにデザインされている。ただし、ハートの4に関してはハートの上下の向きが逆である。それは第二段でスペードを正しく表示する為には避けられない点である。この点はあまり気にならないであろう。

なお、原案の新聞紙で最後に外枠を残し、中央の部分を切り除き、そこから演者が顔を出して「JOKER!」とおどけるエンディングを演出する案が流行しているが、このバージョンでもそれは簡単である。フォースカードにJOKERを加えるのはもちろんであるが、最後に8♦を当てるところまで進行したら、そこで折り畳んで第8図の姿に戻し、そこから横方向の折りを広げると第10図の姿となる。ここで第10図に表示した斜め45度の線に沿って折り畳んで第11図の姿を作り、最後の罫を入れて、縦1文字の部分を残す。それを広げると額縁状の枠が残るから、その中央から演者が顔を示して舌を出してジョーカーを演出すれば十分である。



ところで、このジョーカーは笑いを取るに効果的だが、あまり後味がいいエンディングではない。ジョーカーの代わりにクラブのキングを使い、「クラブの代表者」と称するという演出もあり、また、観客の中に女性がいたら、そのご尊顔をお借りして「ハートのクイン」と表現するのもセンスが良い。その場合、近くの男性に語り掛ける。「いかがですか、このハートの女王は素晴らしい美人であり、あなたにも、とても愛想がいいでしょう。でも、それで喜んではいけません。このクインは八方美人ですから……。」

2. この切り方の第2図 第5図 第8図の切り方の位置を薄い鉛筆などであらかじめ書いておくのもよい。書き込みを観客から見えない位置にして用紙を広げることできるが、仮に見られてもそれに気づかれる心配はあまりない。
3. このA4のコピー用紙の代わりに新聞紙一面を使うと、原案と同じ印象に戻るが、ここに示した切り方は、原案より進んでいる。
4. 原案では、手でデザインをちぎっていく演出も勧められているが、新聞紙が十分乾燥していないと指の力ではなかなか思うように切れないので、罫を使うのが安全である。

以上

◆「観客が任意に選ぶカードを演者が予め予言しておくマジック」 森田 晃 君(第二例会)

01. (A03-04)「封筒による予言のデッキ」(自作)

予言の封筒をテーブルの脇に置いて、デッキを何回かカットしたらトップから1枚ずつテーブルの上に置いて行って、客に好きなところでストップを掛けて貰う。

するとストップを掛けたところのカードと同じカードが予言の封筒の中に入っている。ダクハス4種類のカード6枚ずつが普通のカード24枚と1枚おきにセットされている48枚の変形アルコール・デッキである。平成9年例会で氣賀さんが発表したもの。



02. (A17-123)「目の玉が飛び出る予言」

先ず予言のカードを入れた封筒を卓上に置く。そして1組のデッキを手にとって客に1から52までの好きな数を云って貰う。客が数を云ったら、デッキの客が云った枚数目のカードを取り出すと、予言のカードと一致している。デッキには7枚の同じカードが8枚おきにセットされていて、客が云った数をどのように数えれば良いかを示す密かな指示書がケースの側面に密かに貼ってある。平成17年の例会で土屋さんが発表した原案を氣賀さん改作したもの。森田が令和3年のコンテストの賞品として頂いた。一昨年暮れのコンテストで入賞して景品として頂戴した氣賀さんの作品。



03. (K31-42)「2人が別々に見たカードを1度に予言する」

先ず青裏のカード2枚を予言として裏向きに置く。そして2人の客に1～10までの数を1つ相談して決めて貰う。そうしたら赤裏のデッキを十分にカットしてから、トップから客の決めた枚数を数え落として、最後のカードを客Aに見て覚えて貰う。そうしたら客Aのカードと卓上のカードをデッキに戻して、十分にカットしてから、また客の決めた枚数を数え落として今度は客Bに渡す。以上のように2人にカードを覚えさせて最初に置いた青裏のカードを見ると予言が当たっている。平成5年の例会で彌永さんが発表したもの。

#### 04. 「スパーク・アイ」

客に10以上45以下の好きな数を1つ云わせて、青裏のデッキから客が云った数の枚数目のカードを選び出す。そして赤裏のデッキを客に渡して、客が青裏のデッキから選んだのと同じカードを抜き出して貰うと、そのカードだけ青裏か、裏にシール付きのカードである。 オフィス・ダミー社製のスペシャルセットである。



以上

#### ◆「トランプマジック 2 題」

佐々木 節夫 君(第二例会)

<https://youtu.be/3CXkl45gQFk>

動画のタイムスタンプで内容確認ください。

詳細は佐々木会員にお尋ねください。

00:31:09 発表者: 佐々木節夫君

00:31:09 「予言のトンプ」演技

00:31:52 「封筒に入れた ESP カードの一致  
(マックスメイビン作)」演技

00:37:06

解説

00:44:22 「万博の「ESP デックのシステムと数学」演技



以上

## ◆「カードマジック 2 題」

関 克己 君(第二例会)

### 1. 4 枚のカードの勢ぞろい

準備:

3の     カード 4 枚をトップにおきます。

手順:

4 枚のカードを並べて、お客様に「好きなカードを 1 枚選んで下さい。」と言います。

残った 3 枚のカードをデッキのトップに裏向きに戻します。そして、トップから 1 枚ずつ裏向きにテーブルに置いてゆき、10 枚程度置いたところで、「お客様に好きなところでストップと言って下さい」と言います。

お客様がストップと言ったら、カードを置くのを止めて、「最初に客が選んだカードの数字の山を作ります」と言います。客が選んだカードは<3>ですから、客は必ず<3>と言います。「それでは 3 つの山を作ります。」と言いながら、上から 1 枚ずつ順に裏向きに3つに配って行き、3つの山を作ります。配り終えて3つの山のトップカードを見るとなんと全てのカードが<3>になっているというセルフワーキングのマジックです。



### 2. オーバーキルマジック

準備:

赤裏のカードを 1 組用意し、好きなカードを 1 枚選ぶ (なんでも良い)ここでは、ダイヤの7にします。

メモ用紙にダイヤの7と書いて隠し持っておきます。

カードのトップにダイヤの7をセットして、トップから 20 枚数え(ダイヤの7含め)、21 枚目に青裏のダイヤの7を置きます。

手順:

お客様に「カードの上から 10 枚ぐらいを持ち上げて下さい。」と言います。

持ち上げたカードは、お客様の手元に置いてもらい、残りのカードをトップから順番に表向きに 20 枚数えて置きます。この時、青裏がお客様に見えないようにすること。

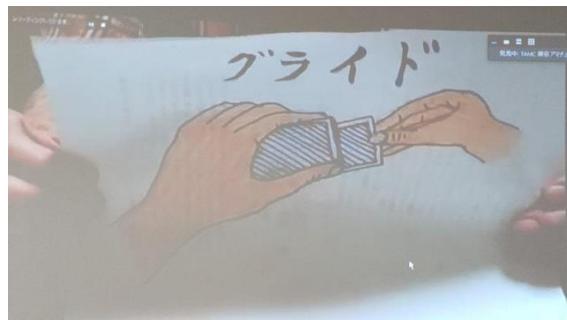
20 枚置いたら、「先ほどお客様が持ち上げられたカードが何枚あるか声を出さずに 1 枚ずつ置いて数えて下さい。」と言います。その時、演者は後ろを向きお客様が数え終わるのを待ちます。

お客様が数え終わったら、先ほど置いた表向けのカードを 1 枚ずつ左から右へ広げていき、「お客様が数えた枚数と一致したところの数字を覚えて下さい。数えた数字が12ならば 12 番目のカードの数字を覚えてください」と言います。その後、お客様に覚えたカードは何かと聞き、「そのカードは予言していました。」と、メモを客に見せる。お客様が数えたカードの一番下のカードもダイヤの7になっており、更に演者がテーブル上に並べたすべてのカードの裏を見ると 1 枚だけ青いカードがあり、それもダイヤの7になっているというマジックです。



◆「グライドの応用マジック」

選んだカードに化けるカード (Card  
Changing into the Selected Card)

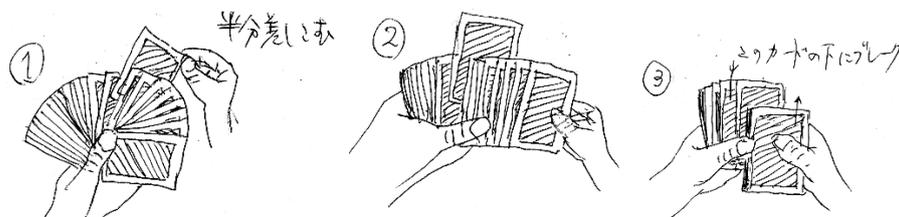


<解説> これは、グライドを使う奇術の代表的な手順である。

<効果> 一組のカードから観客が好きなカードを選ぶ。演者はそのカードを一組に切り混ぜて、一組を三つの山に分ける。次に三つの山のボトムを確かめる。そこには選ばれたカードは含まれていない。ところが、その底札三枚から観客が選んだ一枚のカードが不思議なことに最初に選んだカードに変化してしまう。

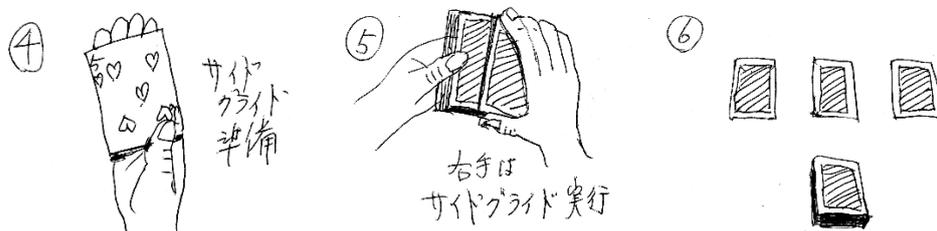
<方法>

1. この奇術のためには用意はいらない。ただし、グライドを実行するのに十分な新しいカードであることが望ましい。
2. 一組のカードを取り出してよく切り混ぜてから、それを術者が両手の間に広げる。そして、観客に任意の一枚のカードを選んでそれを覚えて、テーブルの中央に裏向きにお願いしてもらう。
3. 演者は一組を扇状に広げ、そこに選ばれたカードを差し込む。ただし、差し込む位置は一組真ん中あたり、差し込むのはカードの長さの半分くらいがよい。(第1図)
4. 扇を一旦閉じて、再度それを両手の間に広げてみせる。(第2図)

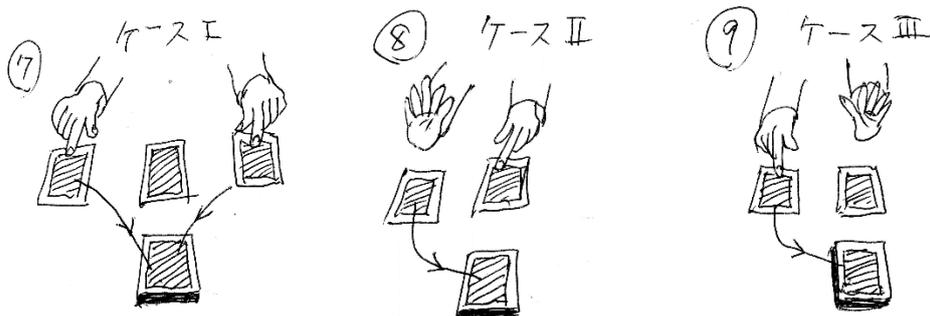


5. ここで大切な動作がある。それは、向こうに突き出した選ばれたカードを右手で引いて、それが他のカードと揃うようにすることである。(第3図)
6. これがうまくできたら、選ばれたカードの真下のカードの下に密かに左手小指のブレークを保ち、カードを揃える。
7. 次に一組をよく混ぜる趣旨で、トリプルカットを実行するが、ここではまずブレークの上のカードを右手で取り上げてテーブルに置き、次に残りの上半分を右手に取ってテーブルの山の上に乗せ、最後に残るカードを右手でテーブルのカードの上にポンと重ねる。以上のトリプルカットの結果、観客が選んだカードは一組のボトムから二枚目になる。そのことを観客は知らない。
8. さらに念を入れてカードを切り混ぜるが、それはヒンズーシャフルで、シャフルの初めに一組の真ん中1/3を引きぬいて上に向かって切り混ぜるのがよい。これはボトムが狂わないフォールスシャフルの役割りを果たす。

9. ここで「カードをよく切り混ぜましたので、お客様がお選びのカードがどこにあるか見当が付きませんが、これからそのカードを探し出したいと思います。」という。
10. 一組をテーブルに置き、まず上1/3を取り上げて、右側に置く。続けて、残りの上半分を取り上げてそれを左側に置く。その結果、テーブルには左右に並んだ3つの山ができるが中央の山の底から2枚目が選れたカードになっている。
11. 次に、右手で右の山を取りあげる。持ち方は拇指を手前、中指を向こう端に当ててカードを挟み持つ持ち方である。そして、その底札を観客に見せる。見せたらそれを元の向きに戻し、左手食指でボトムカードを左方向に引き抜いてそれをテーブルの右に置く。
12. そうしたら、右手が持っている山を真ん中の山の上に重ねてしまう。次に、その山全体を右手に持ち、やはり、新しい底札を観客によく見せる。(第4図)



13. そしてそれを元の向きに戻して、左手食指で底札を引きぬいてそれをテーブルに置く。ただし、このときだけは、左手が底札を抜く動作のときに右手がサイドグライドの技法を実行する。(第5図)その結果、テーブルに置かれるのは見せた底札ではなく、底から2枚目であり、それは正に選ばれたカードである。そのことを観客はまだ知らない。
14. 右手のカードを左の山に重ねて、その山全体を右手で取りあげる。底札を観客に見せてから、カードの向きを元に、左手食指で底札を引きぬきテーブルに置く。このときはサイドグライドは行わない。
15. 以上で、観客は三つの山の底札を見せられて、そこに選んだカードがなかったことを確認したと考えるのであるが、実は真ん中のカードは最初に選んだカードになっている。残りのカードは真ん中のカードの手前に置く。カードがT字状になる。(第6図)
16. ここからは3枚から1枚を選ぶ手続きであるが、典型的な「奇術師の選択」の手法を活用する。その手続きを以下に説明する。
17. 「それでは、お客様は左右の手の人差し指でテーブルのカードのうちのお好きな2枚を抑えてください。」とお願いする。その結果は、二つのパタンに分かれるが、その一つは観客が左右の端のカードを抑えた場合である。(第7図)このケースの場合は、術者は抑えられたカードを左右の手に取り、それを一組の上に乗せてしまう。この進行の流れはとても自然である。残ったカードが選ばれたという演出である。



18. 次に第二のケースであるが、観客が一方の手を中央のカードに乗せた場合である。この場合、術者は「大変結構です。」と言い、触られなかった隅のカードを取って一組の上に乗せる。そして、次に「左右の二つの手のうち、お好きな片方の手を上にあげてください。」と願います。その結果はまた二つに分かれる。
19. 仮に観客が真ん中のカードを抑えたまま、もう一つの端のカードの手を上あげたケースである。これをケースⅡと呼ぼう。(第8図) この場合には、手を挙げた方のカードを術者が手に取り、それを一組の上にポンと乗せるだけである。観客が抑え続けているカードが選ばれたカードであるという演出になる。
20. 最後に観客が真ん中のカードの手を挙げたケースである。これがケースⅢである。(第9図) この場合には、術者は手を挙げたところのカードを指さして、「こちらをお選びでしたか。」とつぶやき、抑え続けているカードを手にとって一組の上にポンと乗せてしまう。
21. 以上の三種類のケースに通じてどの場合にも観客が真ん中のカードを選んだようにふるまうことができる。これがこの手法(奇術師の選択)の巧妙なところである。
22. 最後に残った真ん中のカードを指さして「先ほどご覧のように、これはお客さまが最初選んだカードではありませんでしたが、このカードに魔法のお呪いをかけることにいたしましょう。」という。
23. 左手で一組の山の上半分を持ちあげて、その分かれ目から右手でなにかを取り上げるジェスチャをして、それをそっと選ばれたカードの上の置く動作をしてみせる。
24. 最後に最初に選んだカードの名前を聞き、それ確認してから、選ばれた一枚を表返ししてもらおうと、それは正に選んだカードそのものになっている。

以上

今月の土曜研修は、栗田研会員を講師として行われました。  
内容は非常に多岐にわたりマジシャンにとって有益な内容で、実践的なマジックも紹介されました。



以下に演技と解説を記録した YouTube の URL を掲載します。ご活用ください。

- 1.レッドホワイトピンク [〈https://youtu.be/m3N\\_tA0Xgb0〉](https://youtu.be/m3N_tA0Xgb0)  
(赤いシルク→?→??)
- 2.アルティメイトスペリングルーティン [〈https://youtu.be/KgC6xU\\_nXW8〉](https://youtu.be/KgC6xU_nXW8)  
(例会で演じられた。9枚のカードで究極の Spelling)
- 3.ダイバーノンが天海に見せたカードトリックの改案 [〈https://youtu.be/XVxZAUa2aRc〉](https://youtu.be/XVxZAUa2aRc)  
(セルフワーキング:二人の客が選んだカードを予言)
- 4.Die of Destiny [〈https://youtu.be/HUDIPVez8Pk〉](https://youtu.be/HUDIPVez8Pk)  
(例会で演じられた。サイコロを振って、客が選んだカードの出現)
- 5.一目惚れの恋 [〈https://youtu.be/nkYpFlksNd0〉](https://youtu.be/nkYpFlksNd0)  
(二川滋夫さんのオリジナルで、4枚の無地カードを使用)
- 6.続シルクの隠顕 [〈https://youtu.be/PZhRy2kOX0k〉](https://youtu.be/PZhRy2kOX0k)  
(お札で不思議が起きる)
- 7.ロベルトジョビーのレッドカードの改案 [〈https://youtu.be/EIZQX2S1sl8〉](https://youtu.be/EIZQX2S1sl8)  
(52枚のカードで客が選んだカードだけが、...)
- 8.アソシエイテッドプロフェッサーズナイトメア [〈https://youtu.be/dxQRC8wuZCA〉](https://youtu.be/dxQRC8wuZCA)
- 9.音楽について [〈https://youtu.be/Dqgrmx2b0o4〉](https://youtu.be/Dqgrmx2b0o4)  
(多くの21曲をそれぞれどんな演技に合うか、マジックを音楽に合わせる、など...)
- 10.ジャンピングボウ [〈https://youtu.be/lim6xeXqvWw〉](https://youtu.be/lim6xeXqvWw)  
(ネクタイマジックで楽しい雰囲気)
- 11.ダグ・マロイのレモンゲーム演技 [〈https://youtu.be/OF\\_ijkIRAYw〉](https://youtu.be/OF_ijkIRAYw)  
(サインしたお札が、...)

◆ボランティア委員会よりボランティア実施の報告

千代田区社会福祉協議会経由の依頼で下記、田澤利明さんに対応してもらいました。

実施日:

2023年8月26日(土)

実施場所:

HOPE神田(就労移行支援事業所) 千代田区内神田

内容:

前半30分間は鳩出しやカードやモナ・リザマジックなどの実演。

後半は逆さ絵(お姫様と婆)他、みんなのできるマジックを解説(計50分)

この会は知的障害者の就職支援をしている施設の現役生と就職された人の勤続表彰、交流会、

その後マジックを実演。

観客 20名の軽い知的障害者とスタッフ7名



皆さんとても素直に楽しんでいただき、驚きの喚声がたくさん上がっていたとのことでした。

以上